

衆議院環境委員会ニュース

平成 24. 8. 7 第 180 回国会第 11 号

8月7日(火)、第11回の委員会が開かれました。

- 1 特定産業廃棄物に起因する支障の除去等に関する特別措置法の一部を改正する法律案(内閣提出第38号)(参議院送付)
- 採決を行った結果、全会一致をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。
(賛成 民主、自民、生活、公明、佐藤ゆうこ君(無))
 - 大谷信盛君外5名(民主、自民、生活、公明)から提出された附帯決議案について、江田康幸君(公明)から趣旨説明を聴取しました。
 - 採決を行った結果、全会一致をもってこれを付することに決しました。
(賛成 民主、自民、生活、公明、佐藤ゆうこ君(無))

2 環境の基本施策に関する件

- 細野環境大臣、齋藤内閣官房副長官、横光環境副大臣、加賀谷総務大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

(質疑者及び主な質疑内容)

矢崎 公二君(民主)

- 原子力規制委員会の委員長及び委員の国会同意人事案が事前にメディアに漏えいしたことは、政府の情報管理における緊張感の欠如の表れではないか。また、国会同意人事案に関し、事前に候補者から意見を聴く仕組みを国会ルールとして作る必要があると考えるが、細野環境大臣の所見を伺いたい。
- 政府のエネルギー・環境会議が示した2030年までのエネルギー選択に係る3つのシナリオについて、討論型世論調査で約7割の参加者がゼロシナリオを支持したことに対する評価及び「革新的エネルギー・環境戦略」の策定予定時期について、細野環境大臣に伺いたい。
- 東日本大震災により発生した災害廃棄物の処理について、放射性物質汚染対処特別措置法の対象外地域における空間放射線量のモニタリング調査等に対しても国が支援する必要があると考えるが、環境省の見解を伺いたい。

田中和徳君(自民)

- 国家公務員が職務上知り得た秘密を漏らす行為は、国家公務員法の定める守秘義務違反であり、その行為者は、免職等の懲戒処分の対象となり、また、刑事犯として処罰される可能性があると考えますが、加賀谷総務大臣政務官の見解を伺いたい。
- 原子力規制委員会の委員長等の国会同意人事案が漏えいした事案を調査する主体及び具体的調査方法並びに政府

自らが調査できない場合の外部有識者等への委託調査の必要性について、齋藤内閣官房副長官に伺いたい。

- 神奈川県川崎市内の小中学校で環境教育の一環として平成17年度から20年度まで行われた、生徒自らの省エネ活動による光熱費等削減分の一定割合を学校に還元する「フィフティ・フィフティ」という取組について、細野環境大臣の今後の取組方針を伺いたい。

福井 照君(自民)

- 国会周辺原発再稼働反対デモ等に見られる、現代のネット社会が醸成している世論に対し、細野環境大臣はどのように向き合っているか。
- 四国電力伊方原子力発電所に関し、国民に原子炉の状況を目に見える形で十分に説明した上で、地域経済への影響も踏まえ、暫定的な安全性評価基準を策定し再稼働する必要があると考えるが、経済産業省の見解を伺いたい。
- 東日本大震災で被災した中小企業の復旧・再建に向けたグループ移転のための補助金について、食と農とエネルギーの重層的な事前防災に対しても適用すべきと考えるが、中小企業庁の見解を伺いたい。

横山 北斗君(生活)

- 東日本大震災の被災3県をはじめとする東北地方における再生可能エネルギーの利用可能性及びその導入量を飛躍的に拡大するための環境省の取組方針を伺いたい。

- ・「日本再生戦略」(平成24年7月31日閣議決定)に盛り込まれたエネルギー・環境分野の取組により、どの程度の市場規模及び雇用創出等を見込んでいるのか、環境省の見解を伺いたい。
- ・地熱開発と自然環境保全の両立を図るための取組状況について、横光環境副大臣に伺いたい。

江田 康 幸君(公明)

- ・日本経済の低迷状況等の中で、我が国が得意とする省エネルギー及び再生エネルギー等のグリーン技術を使って、エネルギー問題・環境問題・経済雇用問題を一挙に解決すべきと考えるが、細野環境大臣の所見を伺いたい。
- ・浮体式洋上風力発電の実証研究に関し、発電技術の実用化の目途及びこれにより確保できる電力供給量について、細野環境大臣の見解を伺いたい。
- ・新たにラムサール条約の登録湿地となった熊本県の荒尾干潟について、国として積極的に保全及び利用をすべきと考えるが、今後の保全及びワイズユース(賢明な利用)の取組方針並びにピジターセンター設置に対する細野環境大臣の見解を伺いたい。